

# 西歴時代の他の国の勇者の物語

エキスパートこなせたの馬鹿さん

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

時には西歴の最後

空から降りてきた化け物―バーテックスに襲われ

人々は死に、それとも隠すことしかできない

しかし、そんな人達の中には

神樹の力借りて、人々を守るために生まれた

「勇者」達が現れた

……これは、四国の外にいる

国内それとも海外に生まれた勇者たちの物語である

目次

第一話 翼を持つ勇者たち (1)

1

## 第一話 翼を持つ勇者たち (1)

(十時 三十分)

「ほらほら、走れ走れ！」

「このクソ教官めく!!!」

体育座りにしていた僕と他の「勇者たち」は

十三歳くらいしか見えない少女の自称24歳の教官の指示を時間通りに完成することができなかった僕のちよつとヤンキー(みたい)の仲間―羅時恵(ロウ シー ホウエイ)に御仕置きを与えた情況を見守っていた

…… 同じ目にされたくないからな

「おい！ 飛行ユニットの調整でもしてやがれや」

突然目標を僕に向かつてきたのはちよつと驚いたけど

まア、隊長の僕はどうせんなことだけど

「この可燃ゴミを連れて行け、時間はないからな」

「はい……」

僕の名前は頼章翔(ライ ウエイ シャン)、台湾の勇者だった

男の子の僕はなぜ勇者になりましたのかわかりませんが

恐らく、小さい頃から僕の頭の中に突然話し掛かってきた声と何か

関係あるかもしれない

僕は勇者になった理由は、空から落ちてきた謎の白き怪物の存在だった

銃もあらゆる兵器は通用しなく、僕達は地下に隠してあの化け物とゲリラ戦をやらなければならない…… そんなはずだったが

今こうして太陽の下に訓練を続けるのは

教官の御蔭でした

一年前、もう何も聞こえなくなったはずのラジオから

アメリカにいる、僕と同じ「神の声」を聞こえる勇者の無線を聞こえた

希望は、その無線と共にやってきた

すべては、いつかの時のために

教官は、そう教えた

僕はハンガーの鍵を使って、扉を開いた

まるでSF小説やアニメしか存在しない

対（鳥人）兵装、七機の（イカロス）という全身兵装はハンガーの中にいた……………

…………… ほんとうなに作っているのよ、技術も時代も設定全部無視した物なんだよ

「シャンくん、これここに付ける？」

翔「そうだよ、あ…………… こつち間違えちやつた」

「あれ？ 本当だ」

翔「…………… なア、シーホウエー」

「？」

翔「僕達は、時間はあるのか」

確かに、今はこうして地上に暮せるのですか

…………… いつかまだ、あいつらは空から降りてくる

その時、僕達あいつらを止めることはできるか

日本からの連絡よると、四国は結界というバリアがある

そのためにその中に暮している平民たちは被害されることはないらしい

しかし僕達にはそんな物はない、落ちてきたら僕達は無防備の状態なんだ

翔「なんとか頑張らないとな」

時恵「…………… そうね」

翔「そう言えば、教官はなんでシーホウエーだけ厳しくするのだろう」

その時、建物の中に聞きなれていなかったアラームの音が響いていた

翔「うそ…………… シーホウエー！」

時恵「わかった」

僕達はいつも持っている無線装置で、時恵は仲間たちに

僕は教官に無線を繋げた

―出撃準備備えて

教官はただそれだけを言った

翔「え？」

―私が止めるわ、あなたたちはあなたたちのことをやりなさい

翔「教官、変身……するじゃないわね」

―このあとは頼んだわよ

翔「まて！ 教官!!!」

無線は切れた

翔「シーホウエー！ 手元に何をしているか構わない！ 早くハン

ガー行けえッて言え!!!」

時恵「ええ!？」

翔「教官、馬鹿のことをしないで」

僕は、それしか出来なかった